

# 長崎 もりの通信

— NAGASAKI FOREST NEWS —

特集▼平成29年度 第1回 技術研修会  
『偏心したあばれ木の伐倒と搬出』

- コラム — 杣道 — Vol.1 「ランドマーク」
- 森のキセキ
- センターからのお知らせ

047 号

H29. 7月



平成29年度 技術研修会

## 第1回『偏心したあばれ木の伐倒と搬出』

長崎県森林ボランティア支援センターでは、登録団体を対象とした技術研修会を例年開催しています。通常の森林整備技術の講習は、様々な機関により実施されていますが、自己資金で活動するボランティア団体には、それら作業技術に加え、

1. 道具や材料の現地調達技術
2. 作業そのものや副産物による、一般向け体験プログラム開発技術
3. 作業副産物の、実用化、製品化技術

などが求められる場合があります。そこで、今年度は、各団体の抱えている技術上のニーズを把握し、それに対応する形の研修会を開催する予定です。

第1回目は、『偏心したあばれ木の伐倒と搬出』をテーマに「NPO法人 大村里山村づくり委員会」が活動する大村市徳泉川内町のフィールドで平成29年7月23日（日）に開催しました。この団体は、先ごろ森の音楽堂を完成させ、柿落としコンサートを開催されたように、森を舞台とした文化活動の拠点づくりを目指して活動されています。今後、武蔵野美術大学と提携して、間伐木を利用したアート作品作りのワークショップを計画しておられ、そのために必要な技術として、このテーマでの研修会を行うことにしました。

対象木は、根回り径50cmほどのホルトノキで、大きな力枝が伐倒方向の反対に出ており重心の見極めを難しくしていました。またこのくらいの木になると、芯の腐食や空洞化により、ツルがきく部分が限られている場合が多くみられます。この木もそうでした。今回の伐木に必要な技術は、主に下記の6つです。

- ① 腐食具合の確認
- ② 重心の見極めと、伐倒後の樹木の動きの想定
- ③ 芯部の状態とツルのきき具合の見極め
- ④ 牽引具の装着
- ⑤ 伐倒後の安全な枝条処理技術
- ⑥ 滑車の利用技術

研修会には、大村里山づくり委員会のメンバー以外に、長崎市内の3つの団体からの申し込みもあり、16名ほどの参加となりました。冒頭に述べた現場での実践的な技術は、マニュアル化されていないこともあり、各団体による、試行錯誤や創意工夫により賄われています。この研修会が、その部分での情報交換の機会として機能することにより、全体のスキルアップとモチベーションの向上に役立てばと考えています。

研修会にご参加いただいた皆様、熱い中お疲れ様でした。

※当センターでは今後も各団体のニーズにあわせた研修会を開催しますので、技術相談などご連絡ください。



## 『ランドマーク』



繁ばあの大タブノキ

長崎県緑化推進協会が主催するウォーキングイベント「森林の集い」の企画をお手伝いさせてもらっている。年2回開催されるこのイベントに、平成26年から関わらせてもらっているが、今回初めて、森林散策に加え、集落散策のコースを設定した。そしてタイトルも「森と山里の集い」と名付けた。すると申し込みの大半がそちらに集中した。

山里コースのキャッチフレーズに「繁ばあの大タブノキ」をうたったのが、人々の関心を引き出したものと見える。

初めて、このタブの大木の下に立ったとき「そういえば、自分の住む大村の山手の方に『大多武』という集落があったなあ。そこにもきつとこんなか、もしかするともっと大きなタブノキがそびえていたに違いない。」そんなことを考えた。本当のところはどうだか知らないのだけれど…。大村の山手には他にも「須田ノ木」「黒木」といった地名があり、海ばたには「松並」というものもある。ずいぶんと昔になってしまったが、幼いころ見たそのあたりの風情が記憶に残っていることもあり、ランドマークとなっていたであろう、スダジイやクロキや松並木をイメージできないこともない。とはいえ、多くの人にとって、これら地名から樹木の立ち姿を思い浮かべる人は、ずいぶんと少ないと思う。それくらい私たちは木とは隔たって暮らしている。これが東京の「六本木」となると何をかいわんや。この地名から連想するものは人それぞれかもしれないが、樹木でないことは確かだ。

現代のランドマークであるスカイツリーを、見物に行ったことがある。以前には、横浜のランドマークタワービルの真下に立って見たこともある。どちらも、大地(Land)に突き刺さって立っていた。そうして私を見下ろしていた。対して、繁ばあの大タブは大地に深く広く根を張って立っている。だからだろう、その下に立つ私は、抱かれるという感覚に包まれる。

今回、下に佇むものを包み込む力枝のうちでも、最も大きいものに、かなり広範囲な腐食が広がっていることに気が付いた。明らかに樹勢も弱っていてとても気になっている。樹木医に診てもらいたいものだと思ったが、その甲斐性が自分にはないことを、木に詫言った。



杉道(そまみち) :  
杉人の通る道。細くけわしい山道。  
(三省堂大辞林より)



# 森のキセキ

軌

跡

本号より「森のキセキ」のコーナーをお送りいたします。

このキセキには森林の神秘を皆様に伝える“奇跡”と森林の足跡を辿り伝える“軌跡”の二つの思いを込めました。

この記事を読んでいる時間に、皆様にも森林に想いをはせて頂ければ幸いです。

県立公園多良岳に水源を発する諫早市の轟溪谷は、水が清く、毎年多くの方が避暑に訪れます。この溪谷には、イロハカエデ、ヒメシャラなど植物も豊富で興味は尽きません。今回は、ちょっと面白い植物を見つけたので報告します。

報告する植物の名前はウドカズラです。植物図鑑で調べると、ブドウ科に属し、本州（紀伊半島以西）、四国、九州の山地に自生するつる性落葉樹と説明があります。

面白いのはその気根です。つるから気根がすだれのように垂れており、なにかしらお化けを連想させます。植物図鑑にも、これほど見事な気根の写真は載っていません。水気が多い場所に出現するらしく、実物を見たい人は、轟溪谷の「かじか橋」に至る散策路を歩いてみてください。面白い経験になると思います。



## センターからのお知らせ

8月11日（金）は山の日です。当センターでは、森林のはたらきや大切さを多くの人に理解していただくことを目的とし、諫早市「山の日」実行委員会主催「轟峡に全員集合」に出展します。親子を対象にした森の工作では、自然のなかにある落葉や小枝などを集めてオリジナルの苔玉づくりを行います。森林に実際に触れることで、より森林に関心を寄せてもらえればと思います。下記の日程で開催されますので、ご参加お待ちしております。

日 時：2017年8月11日（金） 10：00～12：00

会 場：轟峡（諫早市高来町）

対 象：親子15組先着順

申込先：（一社）諫早市観光物産コンベンション協会

TEL 0957-22-8352

HP <http://www.isahaya-kankou.com/>

※他にも多数イベントがありますので上記申込先HPをご覧ください。

7月分の活動報告は、8月10日までに提出ください。